

BS Medical Express 38

～ ベルシステム24が、お客様の課題解決のお役に立てるよう、医薬関連の最新情報をお届けする月刊誌です。～

オンラインプラットフォーム、薬局向けビジネス強化

Industry Trends

調剤薬局においては、薬剤師が対人業務に集中できる体制とともに、オンライン服薬指導、電子処方箋、マイナンバーカードを利用した資格確認など、いわゆる薬局DXに対する対応が求められている。こうした状況を踏まえオンラインプラットフォーム各社は薬局向けビジネスの強化を進めている。

MICINは22年10月12日、薬歴入力サポートシステム「Karin by MICIN」のベータ版の提供を始めたと発表した。AIが薬剤師による服薬指導会話を分析して自動で薬歴文章を作成する。薬剤師の薬歴入力の負荷が軽減され、患者対応を優先できるよう後押しする。

メドレーは、NTTドコモと共同運営するオンライン診療・服薬指導アプリ「CLINICS」にドコモが提供する電子お薬手帳サービス「おくすり手帳Link」を23年9月に統合すると発表した。同時に、ドコモが提供している薬局管理システムの利用薬局には、メドレーが提供して「CLINICS」と連携する、かかりつけ薬局支援システム「Pharms」の導入を推奨する。「おくすり手帳Link」を利用する顧客は、より多機能なサービスの利用が可能となり、患者の医療体験向上とともに薬局の業務効率化が期待される。

ジェイフロンティアは、医療機関、薬局向けのオンライン診療・服薬指導サービス「SOKUYAKU」利用者に、東京23区内、横浜市内、大阪市内、名古屋市内、福岡市内、広島市内で処方薬当日配送サービスを開始しているが、さらに阪神調剤グループと提携し、離島やへき地への展開により、医療サービスのDX推進を加速している。

調剤の外部委託化等の規制緩和も進むなか、オンラインプラットフォームによる対人業務支援に向けた、サービスラインナップ強化の動きが進むと考えられる。

八王子市、ウェルネスプラットフォーム実証実験を開始

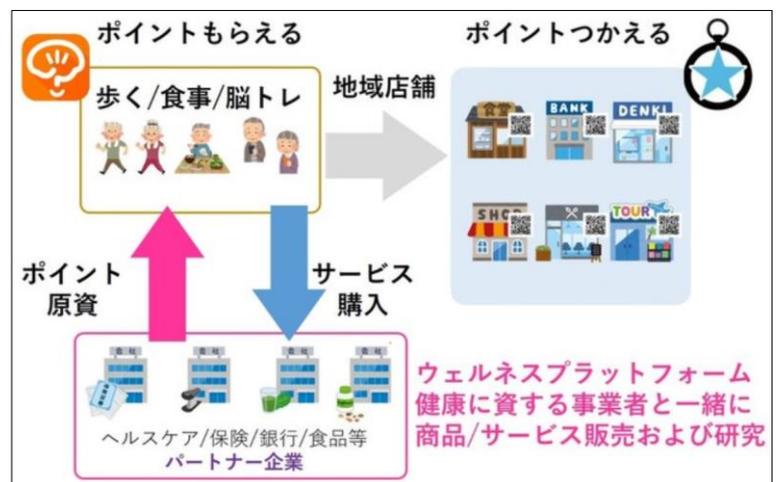
Government Watch

認知症予防に向けた脳の健康維持アプリ「脳にいいアプリ」を提供しているベスプラは、2021年度から八王子市と協業し、同アプリと健康ポイントを連携したICTサービスの提供を開始、22年10月現在、同市内で約1,100名の高齢者が利用している。同取組みは、東京都が主催する「令和3年度東京都次世代ウェルネスソリューション構築支援事業 事業化促進プロジェクト」に採択されており、22年11月より同市内において産官学が連携し、「高齢者」と「健康に資する商品・サービスを展開する事業者」をつなぎ、持続可能な健康施策『ウェルネスプラットフォーム』の実証実験が開始されている。

具体的には、同アプリと各事業者から登録された「店舗・商品（栄養素含む）・サービス・イベント・雇用等のデータ」から、AI技術によるパーソナライズを実施し、リコメンドすることで、高齢者へ健康づくりに役立つ商品やサービス情報を提供する。地域住民のメリットは、健康活動やイベント参加、就労/ボランティア活動により健康ポイントがもらえ、アプリの活用による行動変容が期待できる。事業者側のメリットは、自社製品に興味を示したユーザーの健康および行動データが収集でき、高齢者に対するマーケティングが可能となる。自治体のメリットは、健康ポイントの原資を民間事業者が負担する事で、持続可能な健康施策を実現できる。また、健康アプリによる市民の健康セルフマネジメントが進み、健康ポイントによる地域商業活性化が期待できる。

取組みは、地域住民、事業者、自治体の三者ともにメリットを享受できる持続可能なプラットフォームであり、結果が注目される。

図 「ウェルネスプラットフォーム」健康ポイントの仕組み



出典:2021年2月17日付 ベスプラ プレスリリースを元に作成 <https://bspr.co.jp/news/369/>

FDAは9月23日、医薬品/医療機器の臨床試験に参加する小児の保護について、ガイダンス案「小児を対象とした医療製品の臨床試験に関する倫理的配慮*」を公表し、パブリックコメントの募集を開始した。

小児の臨床試験を巡っては、小児を研究から除外することが小児を保護することになるという誤解により、小児は臨床試験に含まれなかった。そのため、承認された医薬品の多くは、小児に特化した情報がなく、医師は小児の有効性と安全性に関し、FDAによって審査されていない医薬品を処方せざるを得なかった。ガイダンス案では、臨床試験における、リスクとベネフィットに関する考慮事項を含み、▽小児における臨床試験の科学的必要性、▽小児に直接利益をもたらさない介入または処置のリスク分類、▽介入または処置が小児に直接利益をもたらす可能性があるかどうかを評価する方法 – など、小児を保護するための倫理的枠組みについて説明されている。

小児の臨床試験における世界共通の課題として、▽小さな市場、▽大きな負担(開発/安定供給等)、▽被験者確保が困難 – 等、試験の採算性やハードルの高さが指摘されているが、近年、欧米では小児用医薬品の開発が法制化され、試験数が増加している。今後、日本においても本ガイダンスのような指針が求められる可能性がある。

*Ethical Considerations for Clinical Investigations of Medical Products Involving Children

無料オンラインセミナーを開催しました

Message From Our Business

11月17日、「多職種連携の実際と製薬企業に求められる情報提供」をテーマに無料オンラインセミナーを開催、多くの方にご参加いただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。本セミナーは後日オンデマンド配信を予定しております。セミナーの内容や、オンデマンド配信につきましては、弊社ホームページもしくは営業担当者にお尋ねください。

●開催概要

これから本格化する超高齢化や急速な人口減少を見据え、国は病院完結型医療から、地域における医療機能の分化・連携、在宅医療の強化や多職種連携など、地域完結型医療への転換を進めています。製薬企業においては、地域における患者さんの治療やケアの流れを把握し、フォローアップを行うことで、製品の適正使用の推進や、情報収集を行う役割が求められています。

地域のかかりつけ医として在宅医療に携わっておられる医師の視点から、医療・介護や多職種連携におけるICTを利用したコミュニケーションの実際や、ICTを用いた医薬品情報の可能性についてご講演頂き、製薬企業の情報提供活動の今後の方向性を探るヒントを提供したく、本セミナーを企画しました。

●内容

基調講演

株式会社ミクス 代表取締役 Monthlyミクス編集長 沼田 佳之 氏
「製薬企業における地域包括ケアへの関わり」

講演

一般社団法人 全国医療介護連携ネットワーク研究会 会長 土屋 淳郎 先生
「地域における多職種連携の実際と製薬企業に求めること」

ソリューション紹介

株式会社ベルシステム24

●セミナーページ

<https://www.bell24.co.jp/ja/whatsnew/info/events/2022/1117.html>

